



かぜくも

いわき支援学校

地域支援センター通信 No. 23

R3. 12. 24 発行

「子どもたちの理解と支援のために」

副校長 五十嵐 登美

以前、相談に携わっていたこともふまえ、発達が気になる子どもたちの支援を進める上で、大切にしたい点について考えてみたいと思います。

一つめは、「子どもをどう理解するか」です。診断名に関する情報は多くありますが、そのことがその子を深く見ることが妨げることがあります。診断名が同じでも、一人一人の子どもたちの状態や行動の要因は違ってきます。目の前の子どもたちの行動の背景や要因を探り、障がい特性による困難さや生活のしにくさに目を向けていくことが、その子に合った支援や理解の糸口になるのではないのでしょうか。

二つめは、「校内の支援体制」です。周囲の先生方や保護者、校内の関係者で子どもの理解を深め、話し合った支援や手立てを工夫しながら、継続してかかわっていくことが大切だと思います。外部の支援を受けることも有効ですが、その際、それまで校内でどのような支援をどのような体制で行ってきたかを伝えることで、より話し合いの深まりや支援策につながると考えます。

三つめは、「ライフステージを通した切れ目のない支援」です。入学、進学等の際、必要な情報が途切れてしまい、対応に悩んでいるということを時々耳にします。「個別の教育支援計画」等のツールを上手に使いながら、必要な支援や情報が確実に引き継がれることが、その子を支えるために大切なことだと思います。

私は、相談を通して、支援の解決策は、子どもたちや保護者、先生方の中にあると感じてきました。私たちは、地域の先生方や関係機関の方々とながら、子どもたち、保護者、先生方の中にある力が発揮できるような支援のあり方をこれからも考えていきたいと思っています。

就学前のお子さんの遊び場 かぜくもひろば

かぜくもひろばは、就学前のお子さんを対象に、遊びを通してかかわりの手掛かりをさがしていく小集団での遊びのひろばです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数をお子さん5名程度とその保護者の方々に制限し、検温や消毒など対策を講じて行っています。

毎回、様々な遊びや先生方とのかかわりを楽しんでいます。また、継続してかぜくもひろばに参加しているお子さんも多く、回を重ねるごとに積極的に遊びを楽しむ姿が見られます。お集まりでは、歌に合わせてタンブリンを鳴らしてお返事をしてもらいました。自分の名前を呼ばれる順番を待つ、元気にタンブリンを鳴らしてお返事をする事ができました。パネルシアター『ふしぎなたまご』では、たまごの中から何が出てくるか注目したり、次にどんなたまごが出てくるのかを楽しみにしたりして見ていました。ふれあい遊び『バスにのって』では、お母さんの膝の上でバスの運転手になり、音楽に合わせて笑顔で活動することができました。

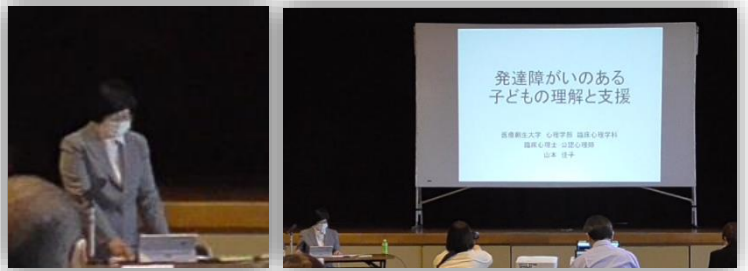
保護者の皆さんからは、「楽しく活動できてよかったです。」「前回の内容を本人が覚えていたようで、楽しくできたようです。」等の感想をいただいています。

次回のかぜくもひろばは、
1月12日(水)に予定しています。



特別支援教育研修会

11月4日、本校において「発達障がいのある子どもの理解と支援」をテーマに、医療創生大学山本佳子教授より講演をいただきました。支援者として、その子の障がいによる「苦手」を補う技術を提供しなければならない責任を改めて考えました。また、支援が成功体験につながった時に、どのような支援を行ったのかを本人や保護者に伝えていくことが、自己認知につながることを教えていただきました。そして、障がいについて、周りの子どもたちへどのように伝えていけばよいのか障がい理解教育についても教えていただきました。障がい理解教育においては、「みんなと同じように苦手なことがある」という一般化した伝え方や「人それぞれ違う」という多様性理解が大切だということ学びました。参加者からは「障がい理解教育の小学校段階からの必要性」などについて感想がありました。適切な障がい理解教育を行っていくことが、インクルーシブ教育システムや福島県の教育施策の一つ「地域で共に学び共に生きる教育」へ向けても大切であると考えられる視点をいただいた研修会でした。



特別支援教育について、本校地域支援センターが 様々なサポートをします。

高校のことはなんとなくわかっているが、特別支援学校高等部のことはよくわからない。中学校1年生から支援学校についても知らせたい。



出かける支援で中学校まで伺い、特別支援学校の高等部について生徒たちに説明ができます。

指導に困っている。どこからどのようにアプローチをしたらよいか悩んでいる。



授業参観をして、本人の困り感を探り、ケース会議の進め方から支援の方法検討、校内支援体制の整備についてサポートをします。

学校だけでなく関係機関と連携して支援したい。関係機関とどのようにつながっていったらよいか。



状況を一緒に分析して、福祉機関や行政サービスなど関係機関の情報提供をするとともに、関係機関と学校とが連携する支援会議開催のサポートをします。

これらは、ほんの一例です。地域支援センターは地区の特別支援教育充実のため、他にもミニセミナーなど様々な活動を行っています。

相談支援の依頼については、
幼保園・学校等は管理職の先生から、事業所等は管理者の方から、
いわき支援学校 34-3806 (教頭) へお願いします。
また、地域支援センター直通の電話080-7512-8323でも相談が可能です。学
童保育・サービス事業所等からの相談も可能ですので、よろしくお願ひします。

